

出展目録

著作 (年譜の太字参照)	29点
草稿「謡曲に現れたる宇佐八幡」ほか	3点
掛軸 漢詩「賞月浮雲地愛花風来人……」(小野龍膽)	
俳句「逢へたのかうれしくてはしを割る」ほか(龍)	
俳画「鍋の手のあつかりし元日の事ども」(龍)	
俳画「雀ら目さめ元日のあしたもの煮ゆる」(龍)	
墨書「豊宇氣毘賣大神」	
俳句「軽い咳して障子明けに立つ」ほか	
俳文画「夏瘦せてのみならふ夕哉」(龍膽)	
俳句「雨か晴れて月夜の庭石」(龍膽)	
俳句「一握の米を喜捨して師走の風吹く」(龍膽)	
俳文画「人生七十化てそこねたる男哉」(龍膽)	
「半年に餘る病牀、その無聊を慰めしに……」	11点
雑誌「宇佐史談」(初版オリジナル)	
創刊号、第2、3、5、6、21、22、81、124号	9点
復刻版「宇佐史談」(国書刊行会刊)	3点
愛用の遺品(机、小抽出、硯、朱肉、拡大鏡、俳画帳、画帳 自作の机、脇息、小屏風、衣物掛けほか)	17点
印鑑(落款・蔵書印などと、その印影)	17点
勲八等瑞宝章(勲章と証書)	2点
教員免許状(尋常小学校、師範学校旧制中学校)	2点
辞令(四日市尋常高等小学校、旧制宇佐中学校)	2点
史料調査協力礼状(東京帝国大学史料編纂掛)	1点
賞状・褒状(大分県知事、宇佐郡教育会など)	5点
次兄藤太資料(肖像写真、遺稿集「脱堂遺稿」、落款など)	7点
写真(パネル展示)	34点
肖像画(丹生公男「忍冬斎」画、安東文二郎画)	2点
小野龍膽先生を偲ぶ会(パンフレット・記念写真)	2点
肖像画・龍膽邸庭園図(丹生公男画)	2点
肖像画(小影管一郎画)	1点
肖像写真	1点
書(「酬恩之宜」)	1点

合計151点

ごあいさつ

このたび、ご遺族から小野精一(龍膽)先生の直筆原稿、著書などが、宇佐市民図書館に寄託されました。これらの貴重な資料や先生の業績を知っていただくため、「郷土史家・小野精一(龍膽)展」を開催することになりました。

先生は宇佐中学校の教師をしながら、古文書・古記録の調査を精力的に行い、雑誌『宇佐史談』には八幡神や宇佐宮・郷土の人物・民話・民俗など、さまざまな分野の研究を発表され、それらは後に『大宇佐郡史論』『続大宇佐郡史論』にまとめられました。

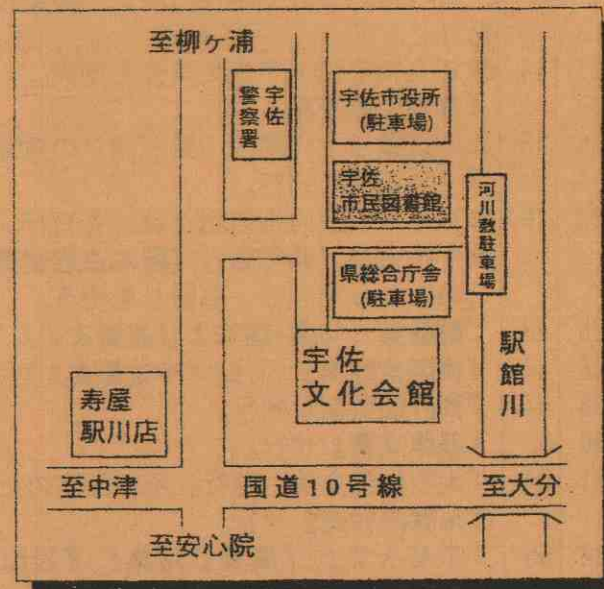
そのほかにも多くの著書があり、先生のすさまじい研究意欲、さらには漢詩・俳句・書画・謡などにも精通されていたことに驚嘆せざるをえません。

『大宇佐郡史論』刊行から70周年にあたる記念すべき年に、このような展示を行うことができ、深く感謝しております。

どうぞゆっくりご鑑賞くださいますようお願い申し上げます。

平成13年3月

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー



平成13(2001)年3月10日 / 発行・宇佐市民図書館
大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600

宇佐市民図書館 開館2周年記念展

郷土史家

小野精一(龍膽)

展



小影管一郎画(昭和15年)

2001. 3. 10 ~ 5. 30

10:00 ~ 18:00 (日曜のみ ~ 17:00)
休館日…毎週月曜日・祝祭日・月末木曜日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー



小野精一(龍膽)略年譜

明治10	1877		11月27日、父伸平、母クマの三男として宇佐郡下乙女村(現、宇佐市大字下乙女)に生まれる(戸籍上の表記は精市)。
明治17	1884	7	乙女小学校入学(校舍浄泉寺境内)。
明治18	1885	8	新築校舎に移転(慈眼寺境内)。
明治20	1887	10	四日市高等小学校入学。
明治21	1888	11	同校二年生のとき貧困のため退学。
明治30	1897	20	徴兵検査を受け、工兵三番補充兵となる。
明治33	1900	23	尋常小学校准教員免許状取得。
明治34	1901	24	四日市尋常小学校で尋常科准訓導として教員生活に入る。
明治35	1902	25	駅館尋常小学校に異動。
明治37	1904	27	尋常科訓導免許状取得。文部省検定教員試験の受験資格を得る。
明治40	1907	30	長洲尋常小学校に異動。日本史、東洋史を担当。
大正2	1913	36	文部省検定教員試験に失敗(以後、計6回失敗し、7回目に合格)。
大正4	1915	38	系口尋常小学校に異動。
大正5	1916	39	高家尋常小学校に異動。
大正7	1918	41	文部省検定教員試験に合格。日本史、東洋史専攻の合格者としては、大分県で2人目。免許取得。宇佐中学校(現、宇佐高校)に赴任。
大正10	1921	44	渡辺完氏宅にて宇佐史談会を創設。『御許山勤王記』刊行。
大正11	1922	45	松方正義より「御許山勤王碑」の揮毫を賜る。『中島氏文』刊行。
大正12	1923	46	中津にて新傾向俳句誌「裸」を刊行。長洲実業学校兼務(非常勤)。『野本白岩遺芳』刊行。この頃から雅号の「龍膽」を使う。
大正14	1925	48	『龍膽第一句集・趣味より感激まで』刊行。
昭和元	1926	49	『桃酒舎歌集』刊行。『宇佐郡史』刊行。
昭和3	1928	51	『御許騒動記』刊行。
昭和5	1930	53	『萩原文書』刊行。
昭和6	1931	54	『大字佐郡史論』刊行。その配本のため上京。『南院内村史』刊行。
昭和7	1932	55	『辛島氏史』、『農業日用集』、『松山城址と松山氏』、『佐田秀歌集』刊行。
昭和8	1933	56	勲八等瑞宝章受章。
昭和9	1934	57	宇佐中学校退職。
昭和10	1935	58	『宇佐』、『郷土読本先輩伝』、『渡辺伝之丞伝』

昭和11	1936	59	刊行。『九州の日光宇佐』発行。帆足萬里の遺跡を探訪。麻生高山に巨石発見。賀茂神社再建(八幡社境内)。『柳田清雄遺芳』刊行。
昭和12	1937	60	『龍膽荘雜纂』刊行。
昭和13	1938	61	『帆足万里書簡集』刊行。
昭和14	1939	62	佐田秀霊前祭。『御許山義挙録』刊行。『佐田秀歌集』[改訂増補版]刊行。『月酒舎歌集』(熊埜御堂琴代歌集)刊行。
昭和15	1940	63	光岡城跡、小柳池碑(矢部)、田椽城社碑(天津)、時枝城社碑など、郡内史跡碑二十数基を建立。『麻生公道遺芳』刊行。『改訂中島氏文』刊行。
昭和17	1942	65	『贈従四位麻生剛立』刊行。
昭和18	1943	66	『続大字佐郡史論』刊行。『夏雨園閑月』[今仁閑心遺句集・追悼集]刊行。宇佐公通神社建立(森山神社境内)。『三浦梅園書簡集』刊行。『広瀬淡窓旭莊書翰集』刊行。
昭和19	1944	67	県立中津工業学校嘱託となる。『志士柳田清雄伝』刊行。刊行紙差し止めにより「宇佐史談」124号で廃刊。
昭和20	1945	68	中津工業学校辞職。
昭和23	1948	71	『床間文芸』脱稿(没後に遺稿として刊行)。「豊前神楽考」、「観音寺々宝考」、「千代尼考」脱稿。「侠客灘亀伝」脱稿。安楽院(現、森山安楽寺)に安徳帝供養塔、柳ヶ浦貴船社境内に懐良親王上陸記念碑を建立(中野幡能氏の出資による)。
昭和24	1949	72	『耶馬の史話伝説』刊行。
昭和25	1950		肺炎に罹り、2月8日没。
	*	*	* * *
昭和47	1972		『大字佐郡史論』[再版]刊行。
昭和48	1973		『続大字佐郡史論』[再版]刊行。
昭和51	1976		『中島氏文』[再版]刊行。
平成5	1993		「宇佐史談」創刊70周年を記念して、「小野龍膽先生を偲ぶ会」を開催。
平成11	1999		『辛島氏史』[再版]刊行。『宇佐郡の古代・中世研究先覚者小野龍膽遺稿集』刊行(丹生公男編、小野龍膽遺児四姉妹発行)。

(年譜中の太字は、今回展示している著作です。)

創刊号

大正十四年二月発行

郷土史談

第拾貳號
御許騒動號

宇佐郡史談會

「宇佐史談」の前身である「史談」(創刊号)と、後に改題された「郷土史談」



「ONO」を図案化した印



「龍膽」の落款



「小野藏書」の蔵書印